

カラマツ人工林で大発生したキクイムシの被害対策

被害の早期把握、被害木の処理などの被害対策をパンフレットにまとめました

背景

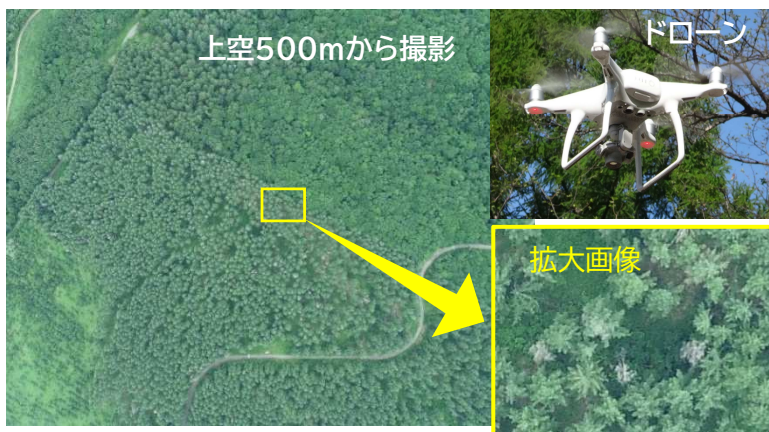
- 2016年十勝管内を中心に、カラマツを枯死させるキクイムシ被害が大発生しました。被害は約2,000ha(十勝管内カラマツ林の3%、全道カラマツ年間皆伐面積の4割)に達し早期の被害把握や被害木の処理方法が必要とされました。

成果

- ドローンによる被害の早期把握、被害レベルに応じた処理方法等についてパンフレットにまとめました。



1 ドローンによる早期被害把握

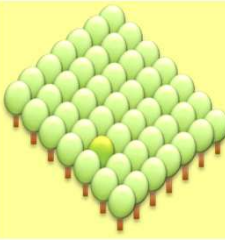
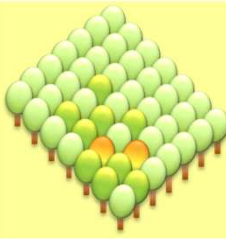
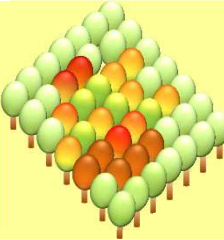


被害木の確認が可能な撮影高度を明らかにし、広範囲な被害把握が可能に！

白い部分が被害木

2 被害レベルに応じた処理対策

被害レベルの区分と推奨される処理方法

		
被害レベル低 (10%未満)	被害レベル中 (10~25%)	被害レベル高 (25%以上)
経過観察 新規枯死木が少ない林は経過観察	間伐もしくは皆伐 新規枯死木が少ない林は間伐、多い林は皆伐	迅速な皆伐 被害木の材価低下と被害抑制のため、枯死してから1年以内に皆伐

3 成果をパンフレットにまとめました！



被害の発生要因・早期把握方法や被害木の処理方法などを被害対策としてまとめました。

期待される効果

○ドローンによる被害把握の効率化及び経済的損失を低減できる処理方法等を取りまとめたパンフレットを活用し、被害対策が効果的に実施できます。

協力機関：北海道水産林務部、市町村および森林組合(陸別町、南富良野町)